

第2号議案

農山漁村地域整備交付金事業

くさばみはつちようがわらせん

草喰八丁河原線 甘楽町

着工年度

平成11年度

評価理由

再評価後5年経過

1. 事業の目的

- ・ 甘楽町を南北に縦断して流れる雄川右岸の森林地域における骨格的林道の整備を行い、森林整備の促進を図る。
- ・ 本路線の利用区域1,142haの76%を占めるスギ・ヒノキ等の充実した木材資源の利用を図る。
- ・ 既設林道や県道を連結し森林地域及び山村地域の路網形成を図る。



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

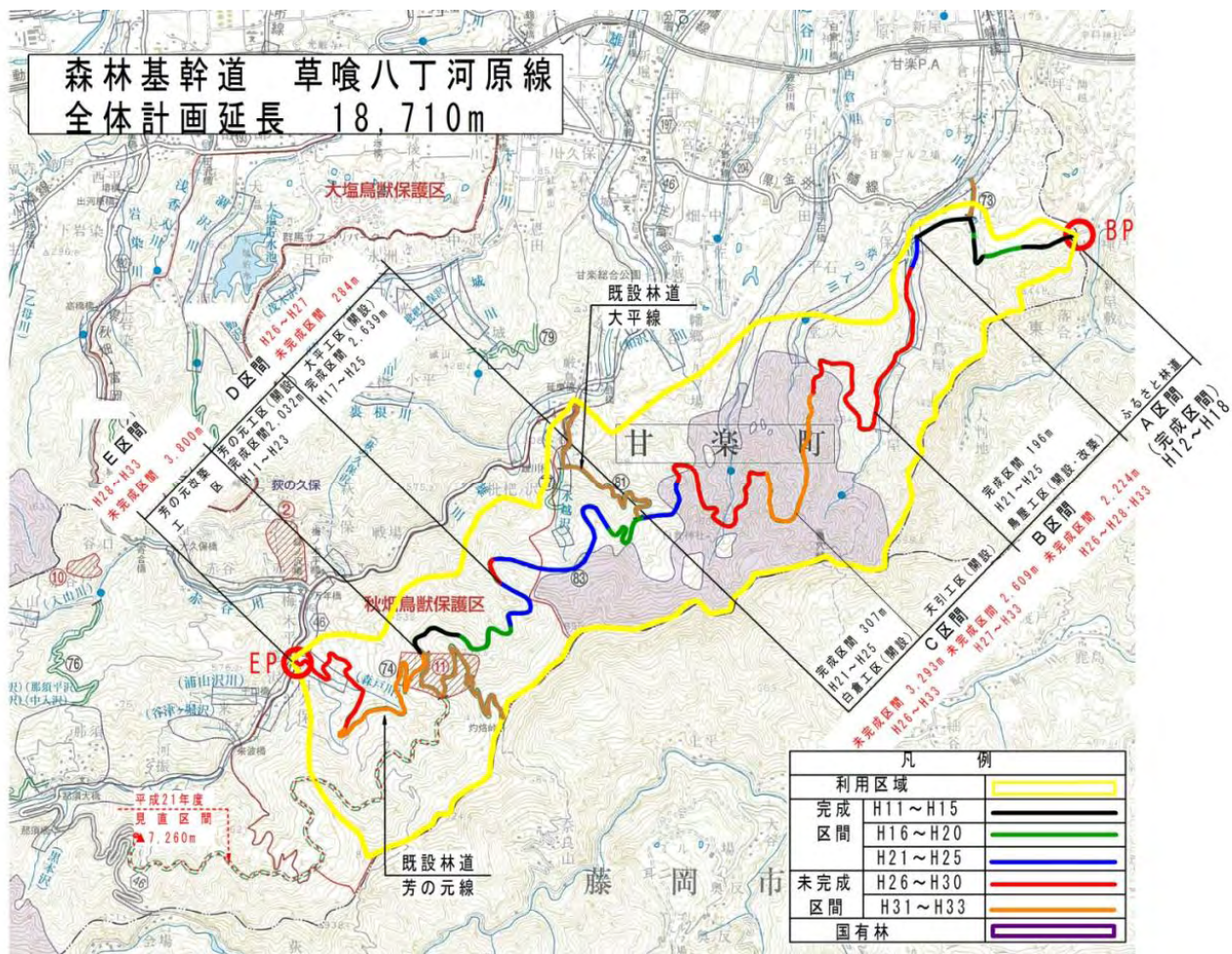
事業場所	かんらまちおおあざあまびきあざくさばみ かんらまちおおあざあきはたあざたきのさわ 甘楽町大字天引字草喰～甘楽町大字秋畑字滝ノ沢	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	4,589百万円	4,589百万円
全体事業費増減の理由		
事業期間	H11～H33	H11～H33
事業内容	道路延長 18,710m 幅員 5.0～7.0m	道路延長 18,710m 幅員 5.0～7.0m

事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
H11	全体計画調査			
H12	工事着工			
H21	計画変更(事業期間・延長・事業費)			
		事業費	2,129百万円 (46.4%)	1,265百万円 (27.5%)
		計画延長	6,500m (34.7%)	3,652m (19.5%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



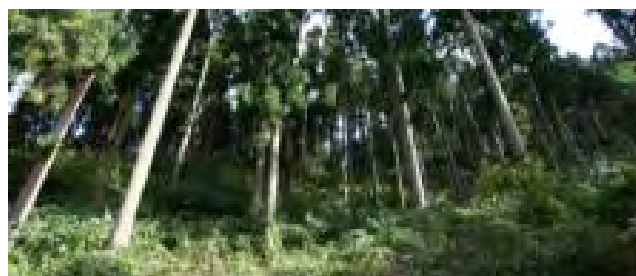
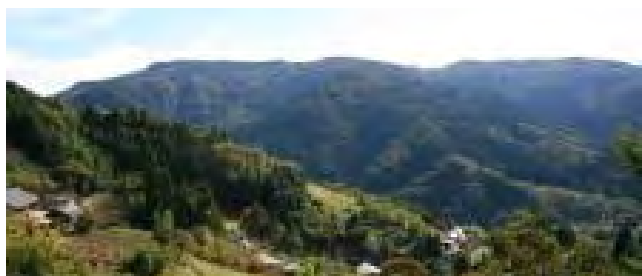
開設: 新規に林道を作設する工事。
改築: 既設林道を拡幅する工事。

事業期間	延長 (m)	事業費 (千円)	森林整備実施面積 (ha)	備考
H11~H15	1,130	573,800	148	
H16~H20	2,522	690,840	400	
H21~H25	2,848	864,250	298	
H26~H30	4,482	1,260,550		
H31~H33	7,728	1,200,000		
計	18,710	4,589,440	846	

- ・H11~H15 : 早期開通のため、A区間の町道及び林道を編入し改築を進めるとともに、D区間の終点付近のアクセス道路から起点に向かって開設に着手。
- ・H16~H20 : 前期に引き続きA区間の改築を進めるとともに、D区間については新たに中間部のアクセス道路からも終点側に向けて開設に着手。
- ・H21~H25 : 前期に引き続きD区間の開設を進めるとともに、B・C区間についても開設に着手。
なお、平成21年度には、既設林道(E区間編入)による終点位置の変更(延長▲3,400m減、事業費▲1,556百万)に伴う事業全体計画の見直しを行い、現在の線形とすることによりコスト縮減を図った。
- ・H26~H30 : D区間を開通させることにより、既設林道(E区間)を含めた林道網が完成する。なお、C区間については、2工区で開設を進めるとともに、B・E区間の改築を中心に工事を進める。
- ・H31~H33 : C区間の開設工事及びB区間の舗装工事、E区間の改築工事を、前期に引き続き進め、最終期間として早期全線開通を目指す。

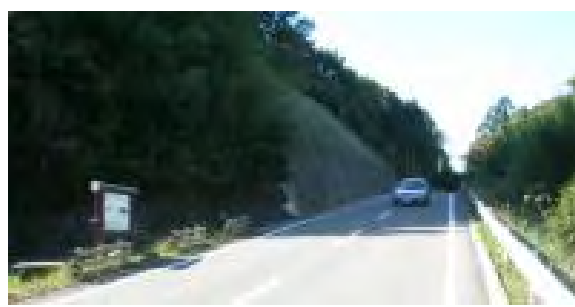
3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

草喰八丁河原線は、甘楽町秋畑地区から甘楽町と隣接する高崎市、県産材センターのある藤岡市の森林地域を結び、この地域の基幹となる林道である。近年は、地球温暖化防止面からも森林の公益的機能の発揮が求められており、民有林、国有林が一体となった森林の管理や整備を効率的・効果的に行うために、路網整備が必要である。また、近年多発するようになった異常気象時に県道が被災した場合の秋畑地区への迂回路としての利用や、自然志向の高まりにより森林空間へ容易にアクセスするための利用も見込まれるため、事業の必要性に変化はない。



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

草喰八丁河原線は、既設林道間を結び林産物の搬出の迅速化、効率化、集約化施策の推進を図る林道網の基幹となる林道であり、雄川右岸の広大な森林の利活用を推進するためには、作業道による代替では不可能である。利用区域内では5カ年間で298haの森林整備が実施され、一部開設区間は山村地域の生活道として利用されている。災害時には緊急の迂回路としても期待されることから、通行の安全面からも一般車両の通行可能な林道として整備する必要がある。



費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		林野公共事業における 事前評価マニュアル		林野公共事業における 事前評価マニュアル			
基準年		平成20年度		平成25年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	4,035,232	99.6%	5,029,392	99.6%	社会的割引率を考慮した現在 価値に換算	
	維持管理費	16,790	0.4%	19,030	0.4%		
費用合計(C)		4,052,022		5,048,422			
便益 (千円)	木材生産便益	2,935,342	44.4%	4,453,803	49.3%	木材生産増加による伐採運搬経 費の縮減や木材利用の増による	
	森林整備経費縮減 便益	1,429,736	21.6%	242,260	2.7%	マニュアルの変更により作業道作 設経費の縮減便益の皆減	
	森林の公益的機能 便益	1,477,371	23.3%	1,496,028	16.6%	整備された森林の蓄積量増加に 伴う、環境保全便益の増による	
	森林の総合利用山 村振興便益	772,736	11.6%	2,830,360	31.4%	森林整備対象面積の増加に伴う 林業従事者就労機会の増による	
便益合計(B)		6,615,185		9,022,451			
費用対効果分析(B/C)		1.63		1.79			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

全体計画延長が、約19kmと長大であるため、元々が長期計画となっている。

また、地質の脆弱な箇所もあり、法面保護工等の対策に期間を要する中で、工事進入路の制約などもあり、事業期間が長期化している。



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

・林道芳の元線から県道富岡万場線を結ぶ区間は、地形が急峻な箇所や秩父古生層特有の地滑り箇所が存在しており、長期にわたる工事期間と相当量の投資金額が見込まれることから、平成21年度に当該区間の実施について見直しの検討を行い、地元との協議及び検討の結果、林道芳の元線を改築し、草喰八丁河原線に編入することにより、早期に林道の完成を図り、事業目的を達成することとした。

・現在の進捗状況はやや遅れ気味ではあるが、林道大平線から林道芳の元線と接続するD区間を優先区間として事業を進めており、この区間は平成27年度に連絡予定となっている。今後は、残りの区間を平行して進め、平成33年度の全線開通を目指す。

・長期間の事業となっているが、地元の甘楽町及び鎚川東部森林組合から全線開通の強い要望があり、森林整備のための骨格的路線であるとともに、山村地域の生活道並びに災害時の緊急迂回路としても必要な路線であることから、事業継続は妥当である。